

第2回宇治市水道事業経営審議会議事録

会議名	第2回宇治市水道事業経営審議会
日時	令和7年6月2日（月） 10時00分～12時00分
場所	宇治市役所8階 大会議室
出席者	（ 委 員 ） 西垣会長 向畑副会長 清水委員 山本委員 曾和委員 北村委員 鈴木委員 多田委員 山田委員 島津委員 辻川委員 星委員 徳田委員 （ 事 務 局 ） 蒲原上下水道部長 岡部上下水道部副部長 大井上上下水道部 技術参事 川北上下水道総務課長 井上上下水道総務課担当課 長 大下営業課長 津田工務課長 山本配水課長 藤井水管理 センター場長 藤原上下水道総務課水道経営係長 （ 傍 聴 者 ） 1名
1 開会 2 上下水道部長挨拶 3 講演 水道事業の現状と課題—全国的な動向—（公認会計士 横田慎一氏） 4 議題 （1）専門部会からの報告 部会長より第1回専門部会の開催結果について報告を行った。 （2）ビジョン・経営戦略の見直しについて 事務局より、宇治市の水道事業について説明を行った。 質疑応答 （委 員）専門部会からの報告の資料3で、人件費の削減が計画より上振れしているのは、下水の負担が増えたということか。 （事務局）これまで上水が負担していた上下水の両方に携わっている職員の人件費を折半したことによるものである。 （委 員）資料4で、令和6年度の損益勘定留保資金が計画を大きく上回っているのは、減価償却費によるものか。 （事務局）そのとおりである。ただし、今後は損益勘定留保資金のプラスより利益剰余金のマイナスが大きくなっていくことから、実資金は非常に厳しい状況に陥っていくと見込んでいる。 （委 員）料金改定をするのであれば早くしないと、借入利息はどんどん増えていき、改定幅も大きくなっていってしまう。早い段階で料金改定をせざるをえない	

と思うが、1世帯あたりどれくらいの値上げが必要なのか。

(事務局) まずは、新たな収入として取り組めるものはないか、今までできていない歳出削減はないかをみるなど、さらなる経営努力が必要であると考え。

(会 長) 最終的に料金改定をすることになったとしても、ステップを踏んでいく必要がある。まずは歳出の削減ができないか。すでに水道事業ビジョンの前半でも取り組んでいただいているので、余力はどこまであるか分からないが、それでもまだ検討していただく必要がある。次にこれもすでに取り組んでいただいていると思うが、施設等でダウンサイジングできるものはないかを検討していただく。家庭用の使用量は減少してきているが、新名神の開通に伴って、企業も参入してくることが想定されるため、そういった企業に水道を使っていただく。さらには京都府南部の市町で連携し、薬剤の共同購入等で経費の削減を図っていただく。ほかにも非常に難しい問題ではあるが、コンパクトシティ化を進める。このようなことを検討いただいたうえで、最終的にどの程度の料金改定が必要になるのかを議論していくことになる。

(委 員) 最近ペットボトルの水を買う方が多いが、水道水を飲んでいただけるように、安全性を広報していく必要があるのではないかと。また、水道水をペットボトルにして販売してはどうか。

(委 員) 水道水の安全性を広報していくことは非常に重要である。他の事業体でも水道水をペットボトルで販売していたところもあるが、ボトルに詰める際に非常にコストがかかるようで、なかなか採算が合わないようである。

(委 員) 老朽管の更新、耐震化のスピードアップが必要であると記載されているが、スピードアップに必要なのは、コストかマンパワーか。

(事務局) コストもマンパワーもかかるため、効率的、効果的にやっていく必要がある。浄水施設の耐震化を優先的に進めてきて全国平均を超えた。今後は、配水池と基幹管路の耐震化を進めていく必要がある。

(委 員) 市民の方々は昨今の水道管の破損事故を見て、心配をされていると思う。宇治市は大丈夫であるとPRしていくことも重要である。

(会 長) 昨今の報道を見られて、市民の方々も心配されていると思う。昨年の諮問においても、市長から水道施設の更新、耐震化についてしっかりと議論してほしいと言われた。今後も引き続きしっかりと議論していきたいと思う。

(委 員) 料金回収率が低いと記載されているが、その要因は何か。

(事務局) かかる費用にみあう料金をいただけていないか、もしくはいただいた料金以上に費用がかかっていることになる。他市町と比較して、宇治市は山間地が多いことや管路が長いことを踏まえると、日々の運営や施設の更新にかかる費用といただいている料金のバランスが取れていないのではないかと。と思う。

(会 長) 昨今はすべてのものが値上がりしている。バブルが崩壊した1990年代半ば

から2020年で物価上昇率は3%であったが、2022年からは企業物価指数、消費者物価指数共に大きく上がっている。資材、薬品、電気代等すべて値上がりし、経費の上昇につながっている。金利が上昇したことにより、企業債の利息が増加したことも負担になっている。これまで役所も人件費削減のために様々な努力をされてきたが、社会的な流れで人件費も上げざるを得ないといったようなこともある。

(委員) 管路更新率が2020年と2021年だけ高いのはなぜか。

(事務局) 複数年にわたって行っていた工事がその年に完成したことによるものである。

(委員) 管路の耐用年数が40年、直近の管路更新率が0.72%であることを考えると、3倍から4倍にしていける必要があるが、現在の人員や予算を考慮すると容易ではない。国の考え方も重要施設や急所施設を優先的に更新していくようになり、老朽管についても京都市の事故を受けて、古い铸铁管を調査して集中的に更新することになった。今後の更新計画を考えていく中で、選択と集中でどこから更新していくと将来の事故のリスクが最も低減できるかということを議論していきたい。

(事務局) 京都市の事故を受けて、緊急輸送道路下の調査を行っている。今後も上下水道で情報共有しながら進めていきたい。

(委員) 地方公共団体金融機構から借り入れているようだが、それ以外からも借り入れているのか。他に利率の低いところはないのか。

(事務局) 財務省財政融資資金と民間の金融機関からも借り入れている。地方公共団体金融機構と財務省財政融資資金の利率はほぼ同じである。民間の金融機関は複数から利率を提案してもらい、最も低いところから借り入れている。

(委員) ここで議論になっている内容は難しく、市民は知らないことが多いと思う。宇治市の水道は安全であるということや、施設が老朽化していて更新が必要であるというようなことを、市民交流ロビー等で市民に分かりやすく伝えていただきたい。

(事務局) 本日も市民交流ロビーで水道関係の展示をしており、先日も防災のイベントで給水車等の展示を行った。今後もそのような場で市民の皆様にご理解いただけるようPRしていきたい。

5 その他

(会長) 本日の意見、議論の結果も踏まえ、今後実施する事業、投資財政計画、財政シミュレーションについて専門部会で議論してから、審議会に諮りたいがよい。

(委員) 異議なし。

6 閉会